

筆算のためには、array 環境の列間隔を 0em に変更する。

※ 初期値は、「5pt」とか、「カラム間に挿入されるスペースの半分」とされる。

`\setlength{\arraycolsep}{0em}`としてから、

$$\begin{pmatrix} xyz \\ abc \end{pmatrix}$$

演算子 +, − 等は状況によって空白が調整される。気になる場合は調整する。

$$\begin{pmatrix} x+x+x \\ x & y & z \\ a & b & c \end{pmatrix}$$

※ 2 列目は、“{ }+x”
3 列目は、“+x” と入力している。

通常の array 環境では、次のような列間隔となる。

$$\begin{pmatrix} x & x & x \\ x & y & z \\ a & b & c \end{pmatrix}$$

次のリンクに、数式の書き方と、数式での空白の挙動の説明がある。

<https://hwb.ecc.u-tokyo.ac.jp/wp/applications-2/latex/math/>

<https://hwb.ecc.u-tokyo.ac.jp/wp/applications-2/latex/math2/>

※ そこに説明されている“数式記号の種別”を指定するコマンドを利用すると煩雑になるので、{ }で済みます。

`\setlength{\arraycolsep}{0em}`とする代わりに、`@{ }`を利用する方法もある。

```
$\left(\right.\begin{array}{rr@{}r}x&y&z\\a&b&c\end{array}\right.\right)$
```

とすれば、2 列目と 3 列目の間だけ、列間隔を 0em とできる。

$$\begin{pmatrix} x & yz \\ a & bc \end{pmatrix}$$